

2) 交通の状況

湖西地域には、滋賀県内、京阪神、北陸へとつなぐ広域的な移動の軸となる鉄道路線としてJR湖西線が存在しています。湖西地域内の移動については、バスで安曇川駅-朽木地域間をつなぐ朽木線、近江今津駅-小浜駅(福井県)間をつなぐ若江線が移動の軸として存在し、その他のコミュニティバスやデマンド交通が細やかな移動を面的に支えています。

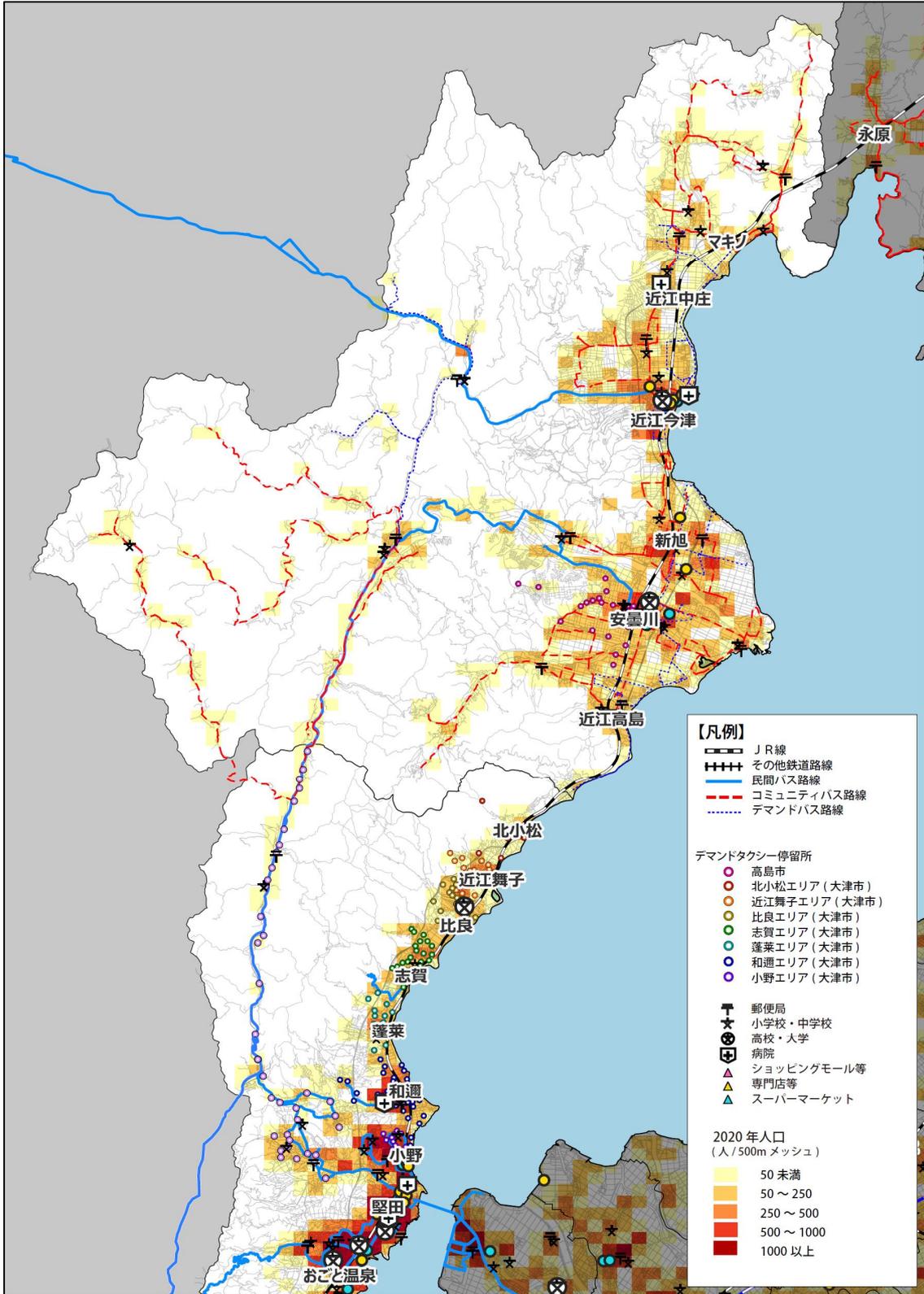


図 2.81 湖西地域の地域交通ネットワーク

しかし、湖西地域を運行する地域交通の運行頻度は高くなく、鉄道路線であっても、J R湖西線の平日昼間の平均的な運行頻度は1時間に1～3本程度です。さらに、J R湖西線は強風の影響により運転を見合わせることも多々あります。

また、バス路線についてはさらに運行頻度が少なく、1時間に1本、またはそれ以下の運行頻度の路線がほとんどを占めています。

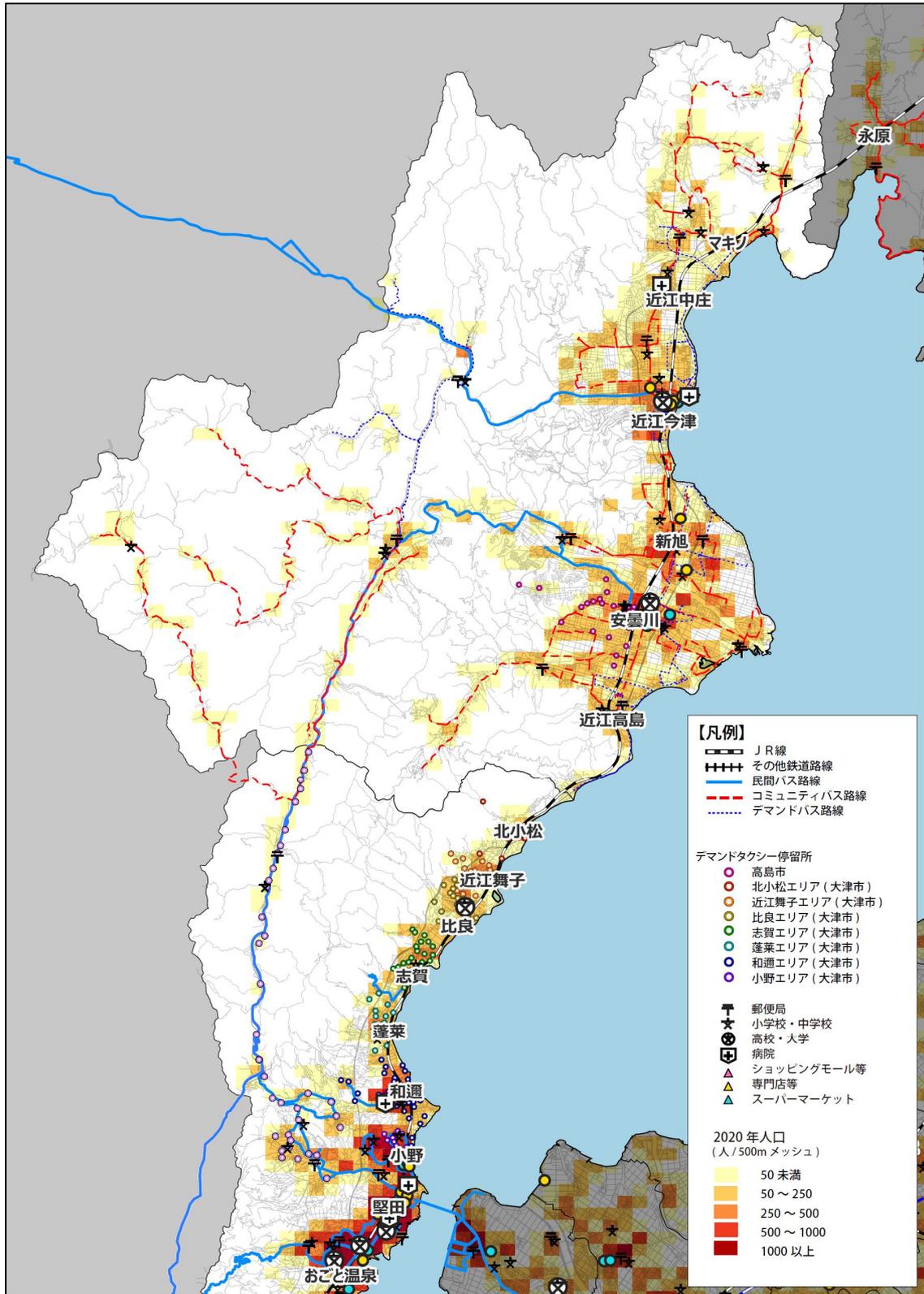


図 2.82 湖西地域における地域交通の運行頻度(平日)

特に夜間ではJR湖西線はおおむね23時台まで運行していますが、ほとんどのバス路線は平日であっても20時までに運行を終了しており、最寄り駅まで戻った先の移動手段がない状況にあります。19時以前に運行を終了する路線の中には、市街地を運行する路線も存在します。

そのためほとんどの地域において、夜間の移動を地域交通で行うことは難しい状況で、タクシーの運行台数も多くないため、地域全体として夜間の移動を自家用車や送迎に依存する状況にあります。

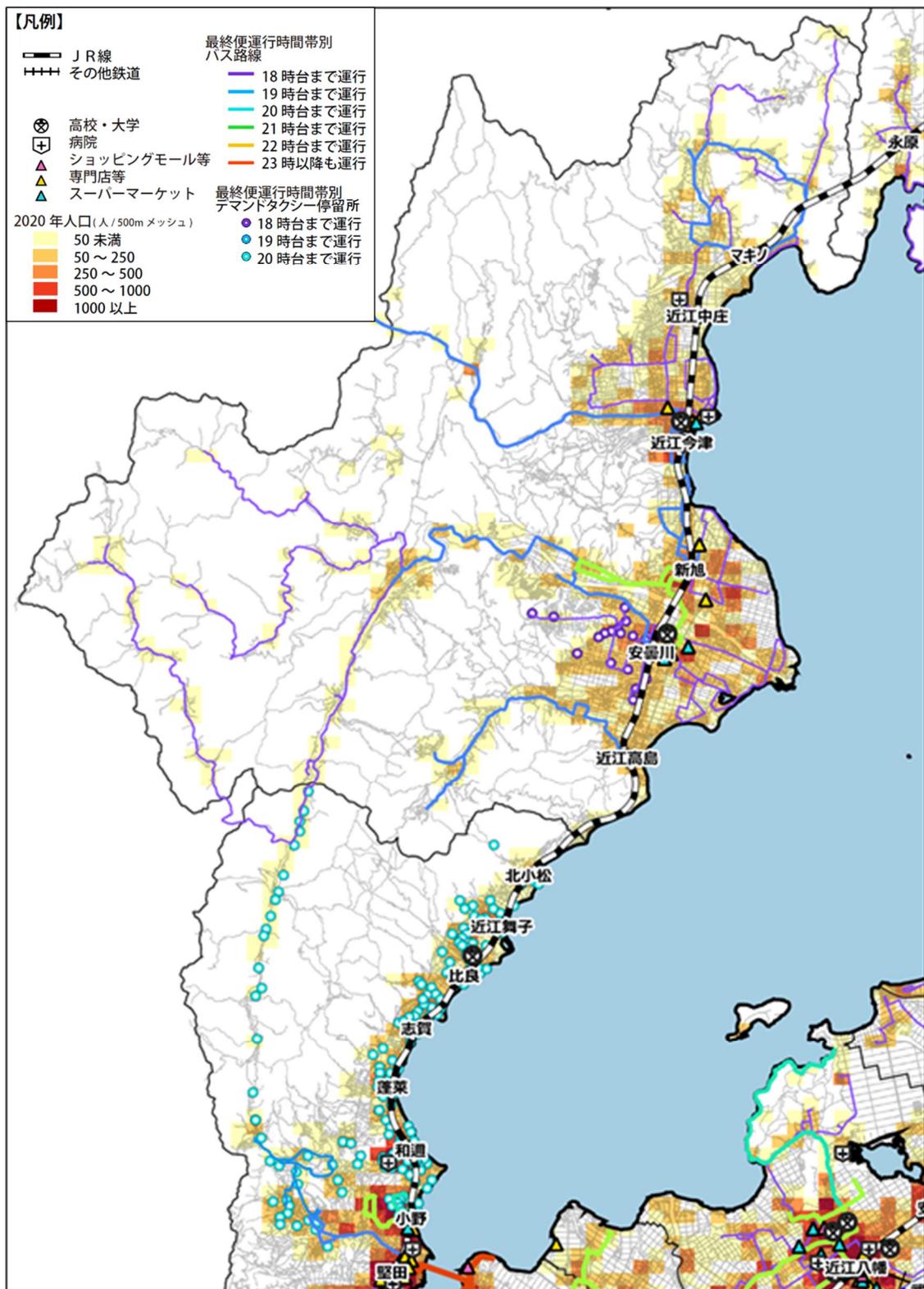


図 2.83 湖西地域における夜間の地域交通運行状況

(1) 分野ごとに見る交通の状況

a) 病院

i) 高島市民病院

高島市民病院は近江高島駅と高島安曇川線等※の各バス路線で接続しています。高島安曇川線等が存在することで、高島市の人口における73%が60分以内にアクセス可能な状況です(図2.84)。

※高島安曇川線、畑線、武曾・横山線、鶯川線

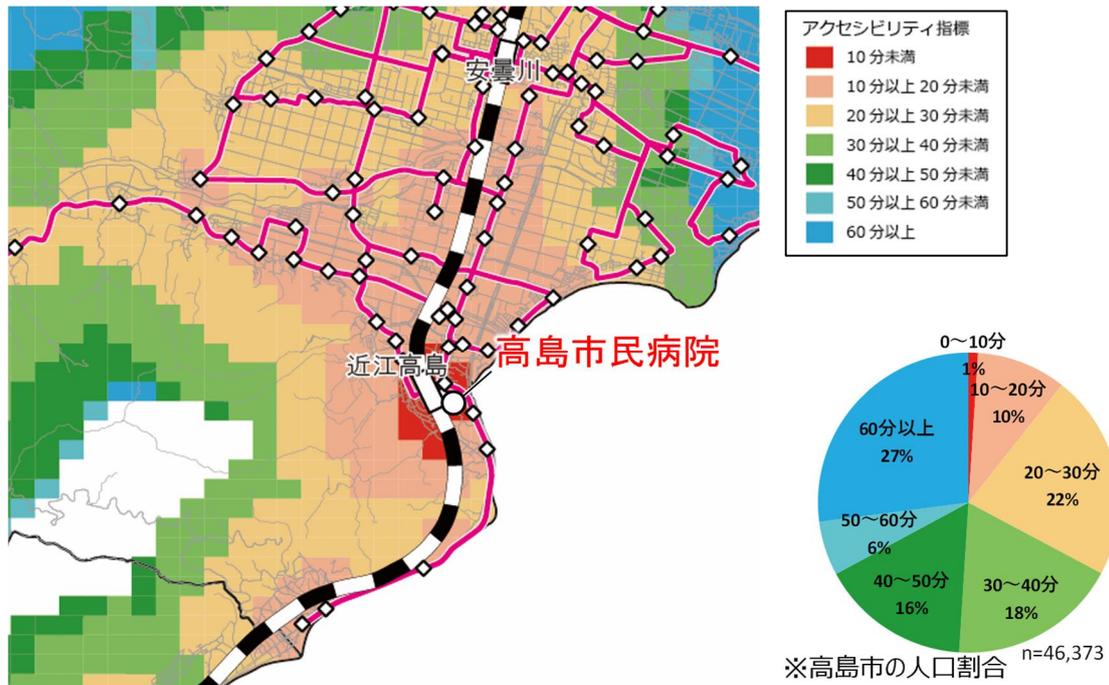


図 2.84 高島市民病院へのアクセシビリティ

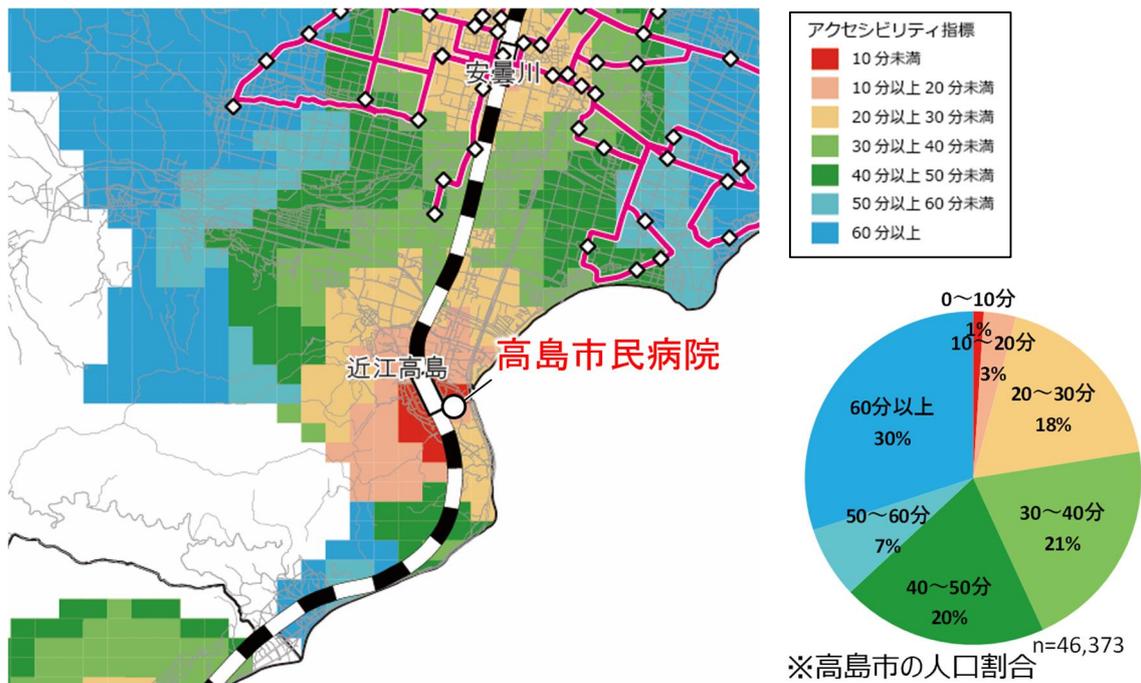


図 2.85 高島安曇川線等が利用できない場合における高島市民病院へのアクセシビリティ

ii) 大津赤十字志賀病院

大津赤十字志賀病院は和邇駅とバスの和辻栗原線によって接続しています。和辻栗原線が存在することで、大津市北部の人口における 41%が 30 分以内に、91%が 60 分以内にアクセス可能な状況です (図 2.86)。

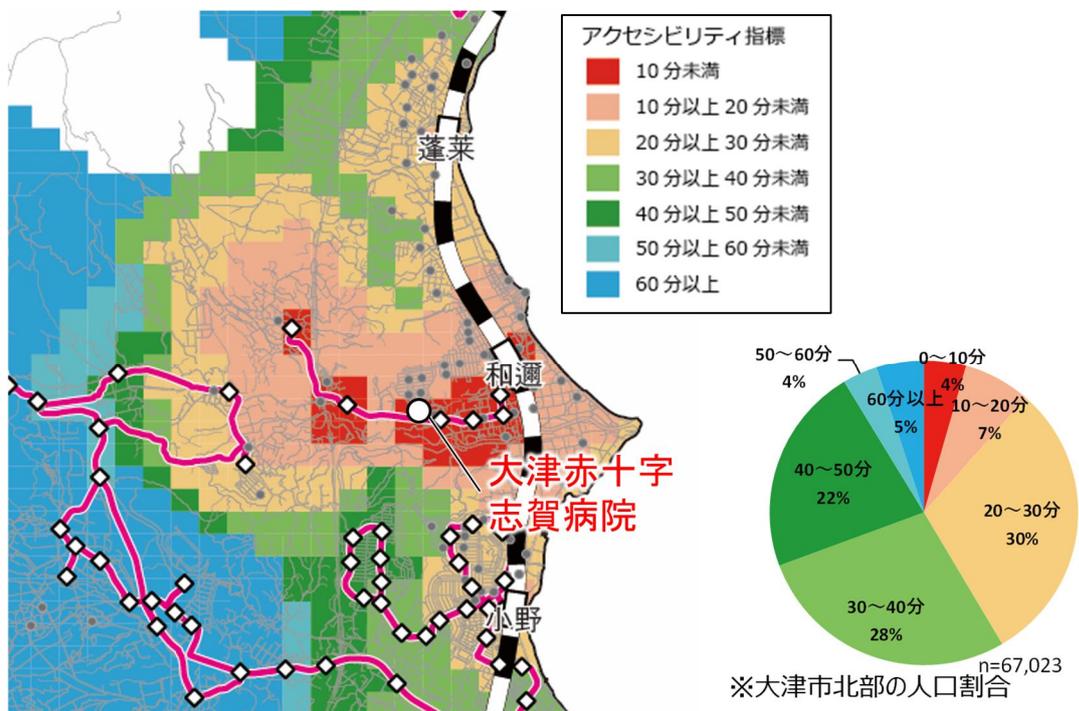


図 2.86 大津赤十字志賀病院へのアクセシビリティ

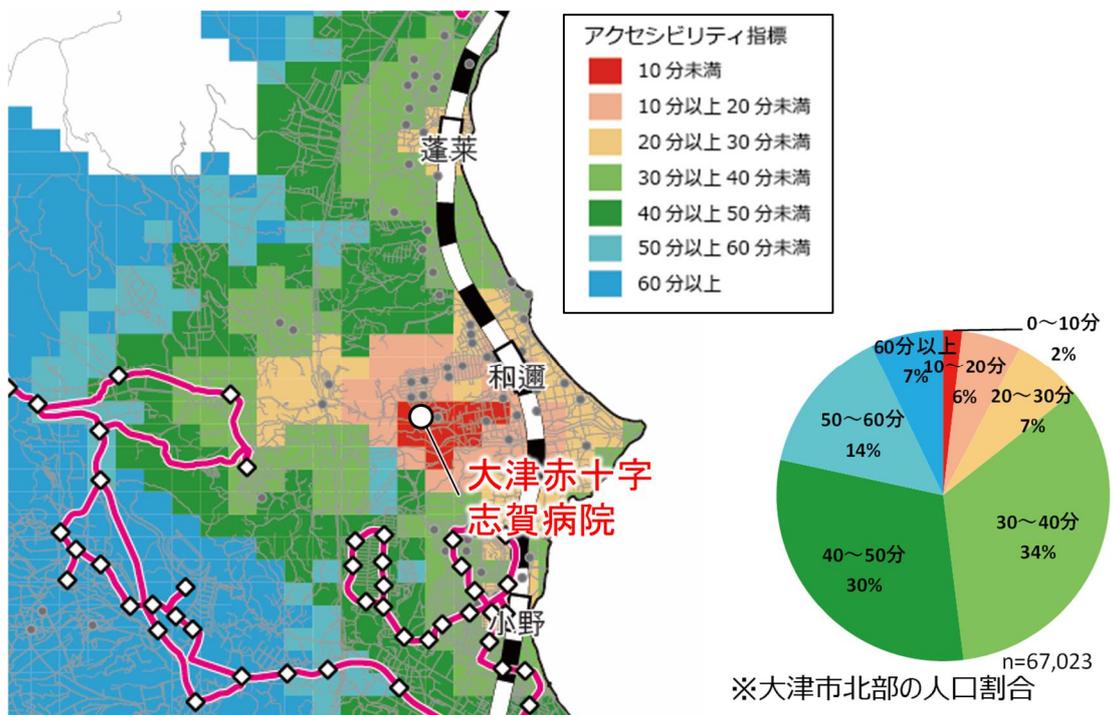


図 2.87 和辻栗原線が利用できない場合における大津赤十字志賀病院へのアクセシビリティ

b) 高等学校

i) 安曇川高校

安曇川高校は安曇川駅とバスの安曇川中央循環線等※で接続しているほか、安曇川駅を発着する各バス路線も利用可能です。各バス路線が存在することで、高島市の人口における74%が60分以内にアクセス可能な状況です（図 2.88）。

※安曇川中央循環線、船木線、新旭南循環線、新旭・安曇川線

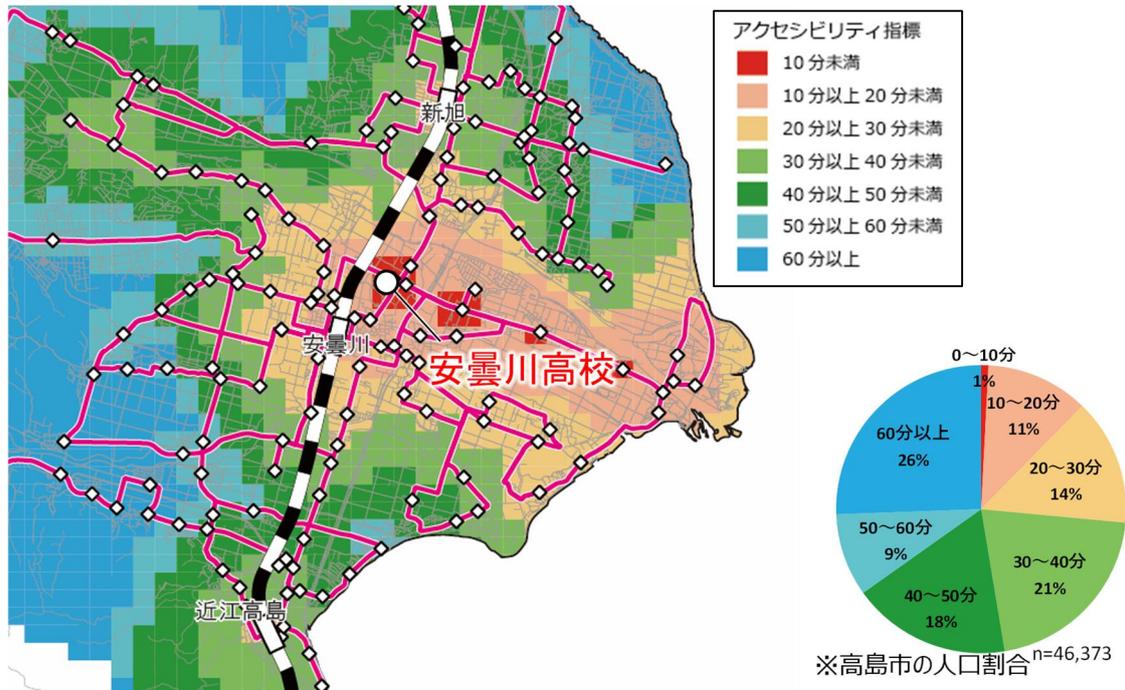


図 2.88 安曇川高校へのアクセシビリティ

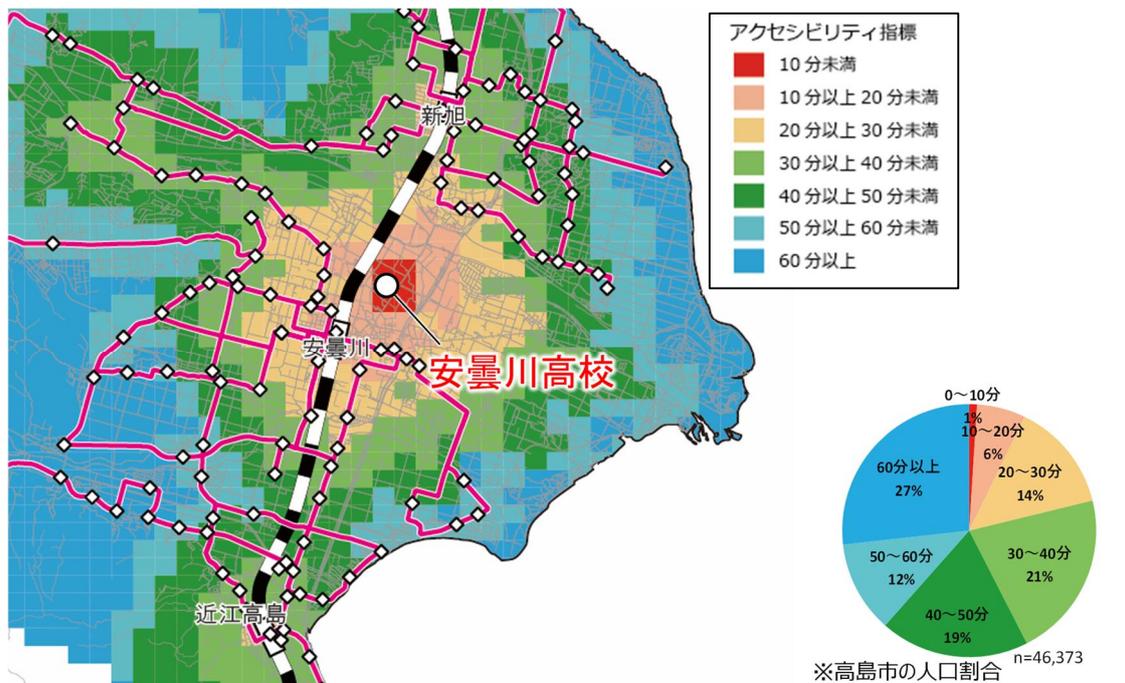


図 2.89 安曇川中央循環線等が利用できない場合における安曇川高校へのアクセシビリティ

第3章 滋賀県が目指す暮らしの姿

3.1 滋賀地域交通ビジョン

本計画の前段階として、滋賀県は県民の日々の生活に密着した「地域交通」に特に焦点を当て、さまざまな社会情勢の変化に対応した持続可能な交通ネットワークの維持・活性化を目指すことを目的とし、ビジョンを策定しました。

本節ではビジョンで整理した、滋賀県が目指す地域交通の姿や、滋賀県として保証すべきとした移動目的を再掲します。

3.1.1 滋賀県が目指す地域交通の姿

鉄道、バス、タクシー等の公共交通は、何よりもまずは「安全に運行を継続」することが重要です。

その上で、滋賀の現状と交通をめぐる課題を踏まえ、将来の姿としては、自家用車利用を一定の前提としつつ、地域特性に応じた移動手段により、自家用車を「使えない人」・「使えない時」でも日々の生活のための移動ができる、また自家用車を「使わない」という選択ができることが重要と考えます。また、滋賀県都市計画基本方針による「拠点連携型都市構造」の実現に向け、広域拠点と地域拠点、また地域拠点と生活拠点等を結ぶ地域交通ネットワークの構築を目指す必要があります。

ビジョンでは以上の考えのもと、2040年代を見据え、目指す地域交通の姿を「誰もが、行きたいときに、行きたいところに移動ができる、持続可能な地域交通」と設定しました。

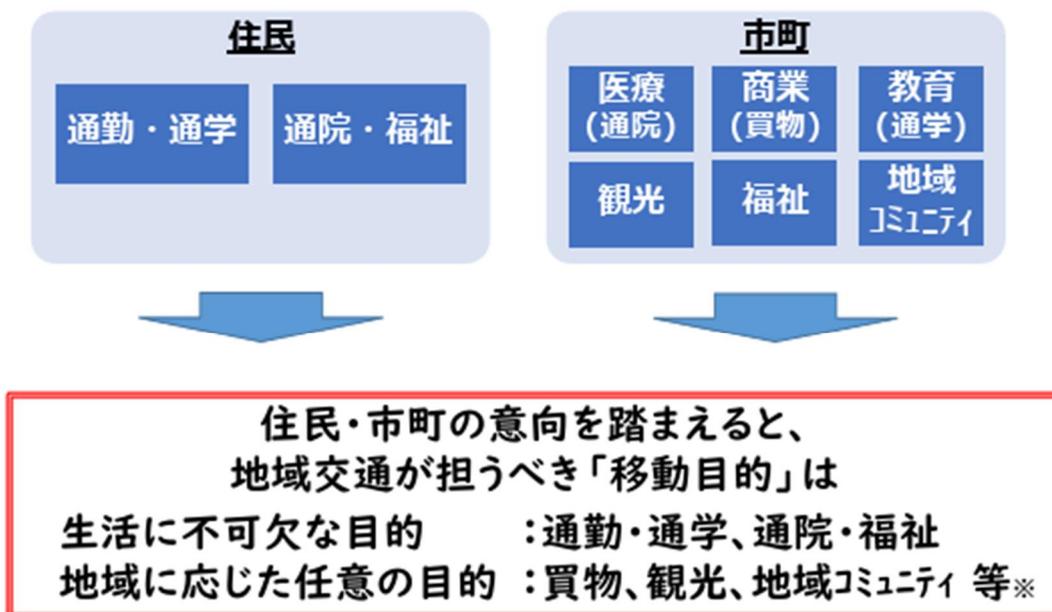


図 3.1 滋賀県が目指す地域交通の姿(滋賀地域交通ビジョンより)

3.1.2 全ての住民に保証すべき移動目的の設定

ビジョンでは、他都市事例や住民・市町の意向をもとに、全ての住民に保証すべき移動目的を、下図のとおり「通勤・通学」「通院・福祉」に設定しました。

これは、「通勤・通学」「通院・福祉」に求めるサービス水準は他目的と比較して高く、これらの移動ができるサービス水準を確保すれば、買物、観光等のその他の目的の移動は一定確保され得るという考えによるものです。



※「産業」「定住促進」など地域で求められる目的を設定

図 3.2 県域指標の設定(滋賀地域交通ビジョンより)

3.2 県民が考える望ましい暮らし

3.2.1 県民等との公論熟議

県民が望む暮らしについて把握し、それを実現するうえで必要な施策を検討するため、ワークショップ、フォーラム、お出かけトーク、滋賀地域交通活性化協議会を開催し、公論熟議を重ねました。

1) 第1回地域交通ワークショップ

第1回ワークショップでは、県民が望む暮らしを把握することを目的に、日々の移動にかかる困りごとやその解決のためのアイデア等について、県民とともに交通事業者と県・市町の職員が一緒になって議論しました。同じ県内でも地域によって暮らしが異なり、移動の状況、課題も異なると考えられることから、県内を6地域に分けて実施しました。

また、建設的な議論となるよう、地域ごとに人の移動や地域交通の整備状況、主要な箇所へのアクセシビリティ評価、バスや鉄道の経営状況や将来の地域交通の維持・充実に追加で必要となる費用を賄う方法等について情報提供を行いました。

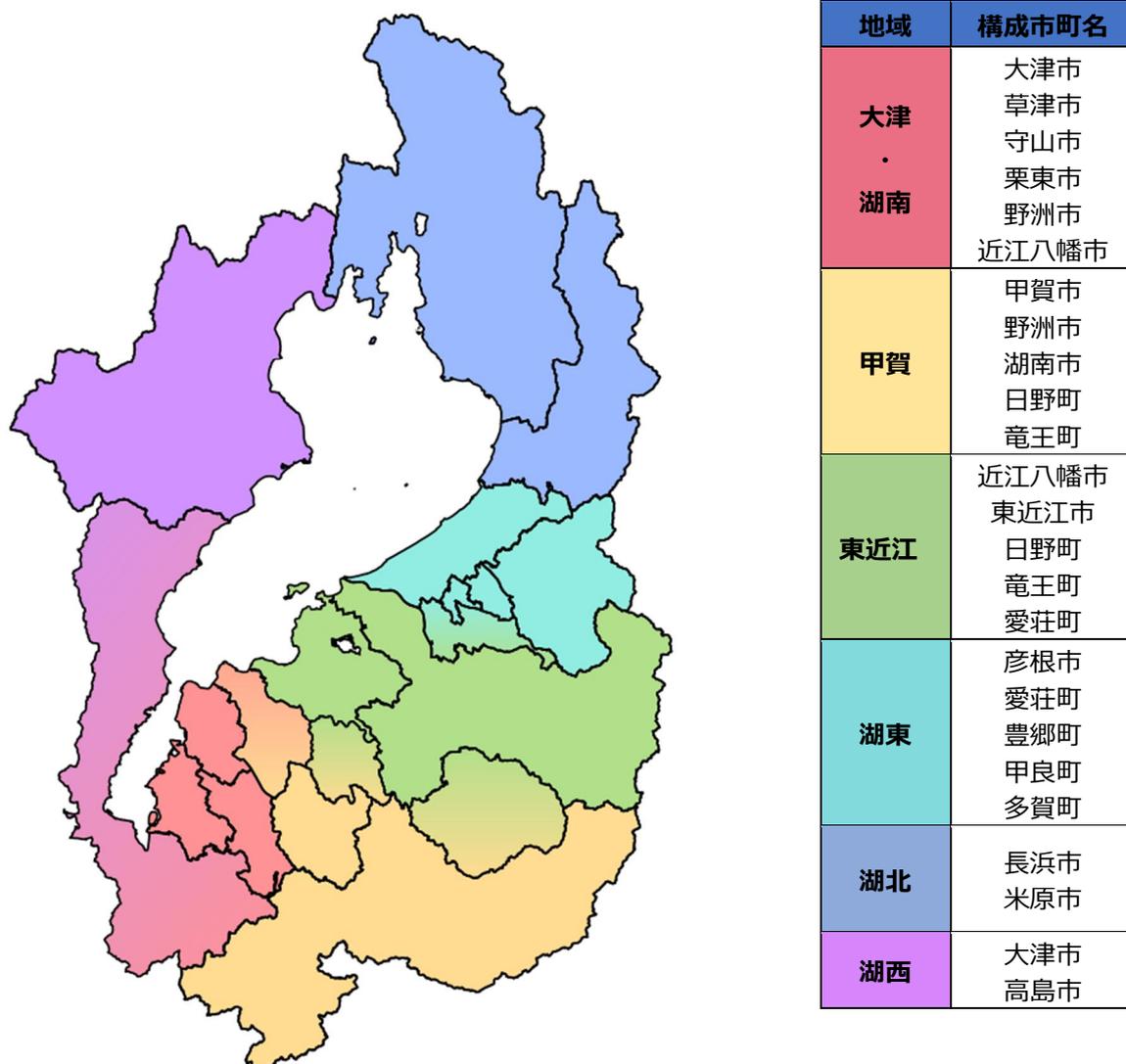


図 3.3 地域の区分図と構成市町

(1) 開催概要

第1回ワークショップは下記のとおり開催しました。

表 3.1 第1回ワークショップの開催概要と参加者数

地域	開催日時	開催場所	参加者数
大津・湖南	令和6年9月8日(日) 9:30~12:30	守山市役所	34人
甲賀	令和6年9月8日(日) 14:30~17:30	甲賀市役所	30人
東近江	令和6年9月7日(土) 9:30~12:30	八日市コミュニティセンター	30人
湖東	令和6年9月7日(土) 14:00~17:00	ビバシティ彦根	26人
湖北	令和6年7月13日(土) 9:30~12:30	米原市役所	35人
湖西	令和6年8月17日(土) 9:30~12:30	高島市観光物産プラザ	31人



図 3.4 第1回ワークショップの様子(左:湖北地域 右:湖西地域)

a) 参加者の属性

ワークショップには以下のとおり、年齢も立場も様々な方が参加しました。

■ 年齢

■ 性別

■ 立場

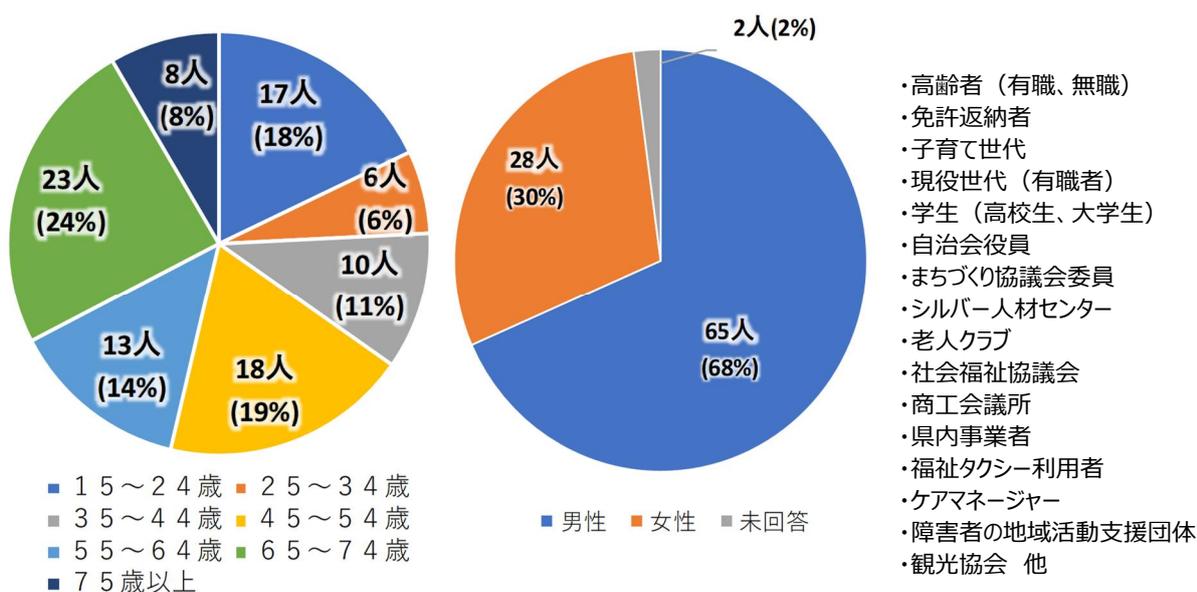


図 3.5 第1回ワークショップ参加者の年齢と性別、立場